

大分工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	キャリアデザイン
科目基礎情報					
科目番号	R05E426		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電気電子工学科		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	1	
教科書/教材	(教科書) なし (教材) 適宜, 資料を配布する.				
担当教員	田中 大輔				
到達目標					
(1) 研修旅行、企業・大学説明会、工場見学等により、企業等における技術者・研究者等の実務を認識できる。(課題レポート等) (2) インターンシップの説明会により、企業学習の目的を理解できる。また、 (3) インターンシップ報告会を通して、複数の企業等において実際に行われている企業活動を具体的に理解できる。(発表および聴講) (4) SPIや専門分野の模擬試験を受けることにより、自己の能力を分析することができる。(SPI、専門分野の模擬試験)					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
到達目標(1)の評価指標	技術者・研究者等の実務を知り、それをこなすために技術者が備えるべき能力を認識できる。	企業等における技術者・研究者等の実務を認識できる。	企業等における技術者・研究者等の実務について十分に認識できない。		
到達目標(2)の評価指標	企業学習の目的を理解し、高専での学習の意義を認識できる。	企業学習の目的について理解できる。	企業学習の目的について十分に理解できない。		
到達目標(3)の評価指標	実際に行われている企業活動を知り、多くの企業が多面的に関わりあっていることを理解できる。	企業等において実際に行われている企業活動を具体的に理解できる。	実社会で行われている企業活動について具体的に理解が十分にできない。		
到達目標(4)の評価指標	自己の能力を分析することにより、自ら明確にした将来像に向けた学習を実践できる。	各種キャリア教育を受けることにより、自己の能力を分析することができる。	自己の能力について十分に分析することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	本科目では、高専での学習により得た知識が、企業や大学等でどのように利用・活用されるかを理解し、自身の将来のありたい姿を明確化できることを目的としている。また、インターンシップや共同教育等を通して、企業および企業人としての社会的責任、社会人として自身が備えるべき能力を認識できるよう自己の研鑽を目指す。さらに、卒業後も社会人として継続的に学習し成長することを認識できる思考を養う。 (科目情報) 関連科目 特別活動、校外実習、実務実習				
授業の進め方・方法	本科目は、MCC(モデルコアカリキュラム)のⅧの態度・志向性の到達目標を達成するための授業である。講話・講演等の聴講、企業等の実務体験や現場見学、および演習を通して目標とする到達レベルに達し、未来志向性・キャリアデザインや企業活動理解などの能力を養う。 (事前学習) 各種企業研究や情報収集を自ら行い分析し、課題学習を行える準備をしておくこと				
注意点	(履修上の注意) 各授業項目について、実施することの意義の理解に努めること。また、それに伴って自己の涵養に努めること。実施する際には事前に周知するので、普段から授業担当者および所掌の係からの連絡について電子掲示板等を常に確認すること。 (自学上の注意) 自身の理想とする将来像を見据えながら取り組むこと。				
評価					
(総合評価) 報告書等の書類の提出状況で評価する。 書類は、単位習得計画表、インターンシップ報告会レポート、誓約書、履歴書、進路希望調査、SPIや専門模擬試験の試験結果、研修旅行(または企業・大学説明会)のレポート等である。やむを得ない事情により欠席した場合などは、代替課題を課し、その提出書類で評価することができる。 (再試験について) 再試験は行わない					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	教務・教育プログラム説明会	教務および教育プログラムについて理解し、自身の将来を考え、一年間の学習を計画することができる。	
	2週	インターンシップ説明会 1	インターンシップ説明会により、企業学習の目的を理解できる。		
	3週	インターンシップ説明会 2	同上		
	4週	自己分析・他己分析による性格分析	履歴書作成や進路選択に重要となる、自己理解を深めるために、ジョハリの窓などを活用した自己分析・多角分析を実施し、進路選択に役立てることができる。		
	5週	インターンシップ関係書類作成	履歴書などのインターンシップ関係書類の作成を通じて、自身の企業学習の目的や履歴を整理できる。		
	6週	インターンシップ報告会	企業学習した内容について相互に報告し、各企業の社会的役割を理解できる。		
	7週	テクノピッチ	地場にどのような企業があり、どのような技術を持っているのか理解し、自身の進路選択に役立てる。		
	8週	進路説明会	進路説明会により、自身の将来および進路について具体的に考えることができる。		

後期	2ndQ	9週	SPI試験1	SPIの模擬試験を受け、その結果から、自己の能力を分析することができる。
		10週	SPI試験2	同上
		11週	教務・教育プログラム説明会	教務および教育プログラムについて理解し、自身の将来像をイメージした、最終学年の学習計画を立てることができる。
		12週	OB・OGキャリア説明会1	本校OB・OGから就職後の業務内容や高専時に身につけておくべきこと、コンピテンシーなどについてご説明いただき、その情報を収集・分析して、自身の進路選択に役立てることができる。
		13週	OB・OGキャリア説明会2	同上
		14週	OB・OGキャリア説明会3	同上
		15週	調査書等の作成	自身の進路を決定し、それに沿った調査書や履歴書を作成できる。
		16週		
	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
4thQ	9週			
	10週			
	11週			
	12週			
	13週			
	14週			
	15週			
	16週			

### モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	3	前1,前2,前3,前8,前11,前12,前15
			その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状に必要な学習や活動を考えることができる。	3	前1,前2,前3,前8,前11,前12
			キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。	3	前9,前10,前11,前15
			これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。	3	前8,前11,前15
			高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でのように活用・応用されるかを説明できる。	3	前4,前13,前14
			企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。	3	前4,前13,前14
			企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。	3	前4,前13,前14
			企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。	3	前4,前13,前14
			企業には社会的責任があることを認識している。	3	前4,前5,前6,前7
			企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているか説明できる。	3	前4,前5,前6,前7,前13,前14
			調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界の抱える課題を説明できる。	3	前4,前13,前14
			企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要であることを認識している。	3	前4,前13,前14
			社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。	3	前4,前13,前14
			技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。	3	前4,前13,前14
技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動を行った事例を挙げるができる。	3	前4,前13,前14			
高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でのように活用・応用されているかを認識できる。	3	前4,前5,前7			
高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でのように活用・応用されているかを認識できる。	3	前4,前13,前14			

			企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。	3	前2,前3,前4,前13,前14
			コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	3	前2,前3,前4,前13,前14
評価割合					
			提出書類		合計
			総合評価割合	100	100
			基礎的能力	0	0
			専門的能力	0	0
			分野横断的能力	100	100